

日本の教育と未来

いま世界では

近年グローバル化が進み、社会・経済・文化などあらゆる面で国境が取り払われ、地球が一つになっています。人や情報は世界を飛び交い、世界規模でダイナミックに変化しています。一方で、エネルギー問題、環境問題、貧困問題、人種・宗教紛争等、地球規模の問題はますます困難を極めています。いまや世界有数の経済大国となった日本は世界のリーダーとして、これらの問題の解決にあたらなければならない立場にあります。今後日本は、グローバルな視野を持ち世界を股にかけて活躍するリーダーを育てていかなければなりません。

日本の教育の課題

いま日本では150年ぶりに歴史が変わろうとしています。これまでの大量生産、大量消費型の「工業社会」では、マニュアルを覚えて早く正確に手足を働かせて、もくもくと再現することが求められていました。しかし、これからのグローバル化する「知識社会」の中では、一人ひとりが新しい価値を創造する力を身につけなければなりません。日本の教育は、従来型の「一斉・画一・一方向」の教育から、「個別・協働」型学習へと転換しなければなりません。また、変化のスピードが速い社会の中で、学校の中だけで教育することには限界があります。地域や社会を巻き込んだ学びのコミュニティを形成することも重要です。

日本の私学の役割

学校の経営は、病院の経営と並んで、もっとも難しく、最も尊い仕事だと思います。病院が人の「命」を預かる場所だとすれば、学校は人の「人生」を預かる場所です。特に中高時代の学びや仲間、恩師との出会いは人生を大きく変えます。それをマネジメントするのが学校経営です。そして、日本が抱えている教育問題にいち早く正面から向き合い、突破できるのは私学だと思います。私学では理事と学校長と現場教員が決めれば直ちに行動ができます。当事者に自覚と意識があればどんな挑戦も可能でしょう。日本の教育を変えるためにも、ぜひ私学に頑張ってもらいたいし、それを応援したいと思います。